

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄	評価点	重み係数	評価点	重み係数			
0 建築物の環境品質								3.7
Q1 室内環境			0.40					3.5
1 音環境		3.0	0.15	-	-			3.0
1.1 騒音		3.0	0.43	-	-			
1.1.1 暗騒音レベル		3.0	1.00	3.0	-			
1.1.2 設備騒音対策		-	-	-	-			
1.2 遮音		3.0	0.35	-	-			
1.2.1 開口部遮音性能		3.0	0.60	3.0	-			
1.2.2 界壁遮音性能		3.0	0.40	3.0	-			
1.2.3 界床遮音性能(軽量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
1.2.4 界床遮音性能(重量衝撃源)		3.0	-	3.0	-			
1.3 吸音		3.0	0.21	3.0	-			
2 温熱環境		3.1	0.35	-	-			3.1
2.1 室温制御		3.3	0.50	-	-			
2.1.1 室温設定		3.0	0.41	3.0	-			
2.1.2 負荷変動・追従制御性		-	-	-	-			
2.1.3 外皮性能		3.0	0.23	3.0	-			
2.1.4 ゾーン別制御性	パリ・インテリアをスパン毎にゾーニング、冷暖同時パッケージの採用	4.0	0.36	-	-			
2.1.5 温度・湿度制御		-	-	-	-			
2.1.6 個別制御		-	-	-	-			
2.1.7 時間外空調に対する配慮		-	-	-	-			
2.1.8 監視システム		-	-	-	-			
2.2 湿度制御		3.0	0.20	3.0	-			
2.3 空調方式		3.0	0.30	3.0	-			
3 光・視環境		3.5	0.25	-	-			3.5
3.1 昼光利用		3.0	0.46	-	-			
3.1.1 昼光率		3.0	0.42	3.0	-			
3.1.2 方位別開口		-	-	3.0	-			
3.1.3 昼光利用設備		3.0	0.58	3.0	-			
3.2 グレア対策		3.0	0.21	-	-			
3.2.1 照明器具のグレア		-	-	-	-			
3.2.2 昼光制御		3.0	1.00	3.0	-			
3.3 照度		4.0	0.10	-	-			
3.3.1 照度	750lx	4.0	1.00	3.0	-			
3.3.2 照度均斉度		-	-	-	-			
3.4 照明制御	1作業単位で制御可能	5.0	0.23	3.0	-			
4 空気環境		4.5	0.25	-	-			4.5
4.1 発生源対策		5.0	0.50	-	-			
4.1.1 化学汚染物質	内装材はF を使用	5.0	1.00	3.0	-			
4.1.2 アスベスト対策		-	-	-	-			
4.1.3 ダニ・カビ等		-	-	-	-			
4.1.4 レジオネラ対策		-	-	-	-			
4.2 換気		3.7	0.30	-	-			
4.2.1 換気量	25CMH/m ²	4.0	0.38	3.0	-			
4.2.2 自然換気性能		3.0	0.24	3.0	-			
4.2.3 取り入れ外気への配慮	給・排気口を6m離し、適正な給気位置を考慮	4.0	0.38	3.0	-			
4.2.4 給気計画		-	-	-	-			
4.3 運用管理		4.5	0.20	-	-			
4.3.1 CO ₂ の監視	管理マニュアルの整備	4.0	0.50	-	-			
4.3.2 喫煙の制御	喫煙フラスの設置による分煙	5.0	0.50	-	-			
Q2 サービス性能		-	0.30	-	-			3.6
1 機能性		4.2	0.40	-	-			4.2
1.1 機能性・使いやすさ		4.2	0.44	-	-			
1.1.1 広さ・収納性	執務スペースあたり9m ² 以上	4.0	0.23	3.0	-			
1.1.2 高度情報通信設備対応	OA707、コンセント容量50VA/m ²	5.0	0.23	3.0	-			
1.1.3 バリアフリー計画	バリアフリー新法を満たす	4.0	0.54	-	-			
1.2 心理性・快適性		4.0	0.32	-	-			
1.2.1 広さ感・景観	天井高さ(事務所) = 2800mm	4.0	0.36	3.0	-			
1.2.2 リフレッシュスペース		3.0	0.27	-	-			
1.2.3 内装計画	インテリアパースによる検討	5.0	0.36	-	-			
1.3 維持管理		4.5	0.24	-	-			
1.3.1 維持管理に配慮した設計	外部金物の防除処理	5.0	0.50	-	-			
1.3.2 維持管理用機能の確保	数量計算による廃棄物置き場の確保	4.0	0.50	-	-			
2 耐用性・信頼性		3.1	0.31	-	-			3.1
2.1 耐震・免震		3.0	0.48	-	-			
2.1.1 耐震性		3.0	0.80	-	-			
2.1.2 免震・制振性能		3.0	0.20	-	-			
2.2 部品・部材の耐用年数		3.2	0.33	-	-			
2.2.1 躯体材料の耐用年数		3.0	0.23	-	-			
2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔		3.0	0.23	-	-			
2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔		3.0	0.09	-	-			
2.2.4 空調換気ダクトの更新必要間隔	カリウムダクトの採用	4.0	0.08	-	-			
2.2.5 空調・給排水配管の更新必要間隔	冷媒管; 銅管、排水管; 硬質塩化ビニル管、給水管; 塩ビライニング鋼管	4.0	0.15	-	-			
2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔		3.0	0.23	-	-			

2.3 適切な更新			-	-	-	-	
2.4 信頼性			3.3	0.19	-	-	
1 空調・換気設備			3.0	0.20	-	-	
2 給排水・衛生設備			3.0	0.20	-	-	
3 電気設備	地階の設置を避けている		3.7	0.20	-	-	
4 機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-	
5 通信・情報設備	地階の設置を避けている		4.0	0.20	-	-	
3 対応性・更新性			3.4	0.29	-	-	3.4
3.1 空間のゆとり			4.6	0.31	-	-	
1 階高のゆとり	階高 = 4100mm以上		5.0	0.60	3.0	-	
2 空間の形状・自由さ	壁長さ比率 = 0.2		4.0	0.40	3.0	-	
3.2 荷重のゆとり			3.0	0.31	3.0	-	
3.3 設備の更新性			3.0	0.38	-	-	
1 空調配管の更新性			3.0	0.17	-	-	
2 給排水管の更新性			3.0	0.17	-	-	
3 電気配線の更新性			3.0	0.11	-	-	
4 通信配線の更新性			3.0	0.11	-	-	
5 設備機器の更新性			3.0	0.22	-	-	
6 バックアップスペース			3.0	0.22	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)			-	0.30	-	-	4.0
1 生物環境の保全と創出	外構面積の30%を緑化		4.0	0.30	-	-	4.0
2 まちなみ・景観への配慮	フジ(藤沢市の花)、マツ(藤沢市の木)を植栽		4.0	0.40	-	-	4.0
3 地域性・アメニティへの配慮			4.0	0.30	-	-	4.0
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	都市空間の活動上のアメニティ向上		4.0	0.50	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上	庇、中・高木による日影の確保		4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性			-	-	-	-	3.8
LR1 エネルギー			-	0.40	-	-	3.7
1 建物の熱負荷抑制	Low-eガラスを使用		3.1	0.30	-	-	3.1
2 自然エネルギー利用			3.0	0.20	-	-	3.0
2.1 自然エネルギーの直接利用			3.0	0.50	-	-	
2.2 自然エネルギーの変換利用			3.0	0.50	-	-	
3 設備システムの高効率化	ERR=43.2		5.0	0.30	-	-	5.0
4 効率的運用			3.5	0.20	-	-	3.5
4.1 モニタリング			3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制	運用・維持・保全を計画		4.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル			-	0.30	-	-	3.8
1 水資源保護			3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 節水			3.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水再利用			3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無			3.0	0.67	-	-	
2 雑排水再利用システム導入の有無			3.0	0.33	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減			4.0	0.63	-	-	4.0
2.1 材料使用量の削減			3.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用	躯体鉄骨に電炉材を使用		4.0	0.20	-	-	
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用	集材材、ビニル床材、外装材		5.0	0.20	-	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材			3.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	躯体・仕上げが容易に分離可能		5.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避			3.8	0.22	-	-	3.8
3.1 有害物質を含まない材料の使用	含有しない建材を各種使用		5.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避			3.3	0.68	-	-	
1 消火剤			4.0	0.33	-	-	
2 断熱材			3.0	0.33	-	-	
3 冷媒			3.0	0.33	-	-	
LR3 敷地外環境			-	0.30	-	-	3.8
1 地球温暖化への配慮	基準階をセットバック		5.0	0.33	-	-	5.0
2 地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
2.1 大気汚染防止	ガスまたはばいじんの排出濃度を大幅に抑制		4.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善			3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制			4.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制			3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制	荷捌き用駐車スペース・駐輪場の確保		5.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制	ゴミの分別回収容器・ボックスの設置を計画		5.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮			3.0	0.33	-	-	3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止			3.0	0.40	-	-	
1 騒音			3.0	1.00	-	-	
2 振動			-	-	-	-	
3 悪臭			-	-	-	-	
3.2 風害、日照障害の抑制			3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制			3.0	0.70	-	-	
2 日照障害の抑制			3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制			3.0	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策			3.0	0.70	-	-	
2 曇光の建物外壁による反射光(グレア)への対策			3.0	0.30	-	-	